

2019年3月20日
〈プレスリリース資料〉

「草の根・人間の安全保障無償資金協力」

サンパウロ州

「フランカ市精神病院車椅子移送車整備計画」に係る
草の根・人間の安全保障無償資金協力の贈与契約署名式について

在サンパウロ日本国総領事館

3月13日(水)午前11時00分、「フランカ市精神病院車椅子移送車整備計画」に係る草の根・人間の安全保障無償資金協力の贈与契約署名式を、「アラン・カルデック精神財団」のマリオ・アリアス・マルチネス理事長と当館野口泰総領事との間で行いました。

● 出席者の挨拶:

(野口泰総領事)

「貴財団は1922年にサンパウロ州フランカ市において設立され、同市を含む周辺の22市から、様々な種類・程度の精神疾患を有する方々を受け入れ、治療・社会復帰支援を行っていると聞いています。理事長を始めとする職員の皆様の長年にわたる取組に敬意を表します。

貴財団は、昨年12月に、フランカ市と提携し、地域の患者を1日最大150人まで受け入れることが可能な日帰りサービスのための施設を開設したと聞いています。この施設の開設により、患者を施設に移送するためのリフト付き車椅子移送車が新たに必要になったとの要請を受けて、この度、草の根・人間の安全保障無償資金協力により、リフト付き車椅子移送車1台の購入に対し、46,952米ドルを限度に無償資金協力を行います。リフト付き車椅子移送車の供与により、さらに多くの患者が日帰りサービスを受けることが可能となり、その方々が社会復帰することができれば当館にとっても大変喜ばしいことです。」と祝辞を述べました。

(マリオ・アリアス・マルチネス理事長)

「日本国民からの資金供与を受けられるのはとても光栄です。当財団の設立由来は、1921年に創立者のジョゼ・マルケス・ガルシア氏が、フランカ市内の路上で精神疾患を患っていた人と子供たちの喧嘩を目の当たりにしたときでした。当時はそのような人を受け入れる病院がなく、その人が置かれている状況を見かねて、自分の家に住ませたそうです。その後、同じ状況に置かれた人たちを次々に家に住ませたことで、1922年にアラン・カルデック精神財団が創立されたそうです。

現在の当財団の目標は4年間以内に1000人の患者さんを受けられるようにすることです。その中で、日本国民からの車椅子移送車の供与は非常にありがたいものです。当財団は非営利団体なので運営面でどのような厳しい状況に置かれても、患者さんはそ

のままにしておけません。必ず貴重な車椅子移送車を大事に使わせて頂きます。」と謝辞を述べました。

●**案件の基本情報**

案件名:フランカ市精神病院車椅子移送車整備計画

被供与団体:アラン・カルデック精神財団

プロジェクト実施地:サンパウロ州フランカ市

契約書署名日:2019年3月13日

供与限度額:46,952米ドル

供与品目:リフト付き車椅子移送車

●**案件概要:**

1. アラン・カルデック精神財団は1922年にサンパウロ州フランカ市において設立され、フランカ市を含む周辺の22の市から精神病患者を受け入れ、治療・社会復帰支援を行っている団体です。同団体は、行政機関と連携し、患者に職業訓練コースを受講させるなど、技術向上を通じた社会復帰支援にも取り組んでいます。
2. 昨年12月からは、フランカ市と提携し、地域の患者を1日最大150人まで受け入れることが可能な日帰りサービスのための施設を開設しました。施設の開設により、患者を施設に移送するためのリフト付き車椅子移送車が新たに必要となったことから、この度、草の根・人間の安全保障無償資金協力の申請を行いました。
3. 今回の協力は、リフト付き車椅子移送車1台の購入に対し、46,952米ドルを限度に無償資金協力を行うものです。リフト付き車椅子移送車による施設への送迎を可能にすることで、患者に対する日帰りサービス及び職業訓練を実施し、ひいては社会復帰へと繋げることを目的としています。

(問合せ先) 在サンパウロ日本国総領事館経済班
(0xx11)3254-0100

【署名式当日の様子】



マリオ・アリアス・マルチネス理事長(左)、野口泰総領事(右)、

